



発行：風の松原に守られる人々の会 事務局：〒016-0805 秋田県能代市大手町3-38 成田憲太郎方 電話0185-52-6316

会設立からの歩み

今号には平成25年9月から26年3月までの活動を記録。見出し番号は創刊号からの通し番号。

◎「風の松原の再生と共に歩む会」と他の市民組織設立の動きについて、私たち「風の松原に守られる人々の会」の考え

昨年11月25日と26日に相次いで2つの会の設立の動きが北羽新報に報じられ、その後、市民組織設立の説明会や「風の松原の再生と共に歩む会」総会が開かれた。



それについて本会では正副会長事務局会議や臨時役員会で検討してきたが、3月14日の第3

回役員会で、4月18日(金)13:30から開かれる総会に提案する内容を次のように決定した。

「風の松原の再生と共に歩む会」は「白砂青松を感じられるエリア」を設定して動き始めるが、現在はいこいのひろば北側の候補地く下の地図中央斜線部分

>15ヘクタールのうち2ヘクタール設定に向け準備している段階であり、「どんな活動を行うか定かでない」「実際に作業が始まるのを見



極める必要がある」「市民の力を結集できるのか」などの意見があった。そこで本会は、新年度も「ニセアカシア除去作業(5月と6月)」「林床改良作業(5月、6月、10月)」「樹種名札取付作業」「会員研修会・講演会(10月)」「クリーンアップ」「予防剤樹幹注入作業」を実施しながら、「再生と共に歩む会」の活動に参加していかどうかを見極めたい。

なお、できれば会員以外の方々も本会の作業に参加し体験していただきたい。新市民組織設立を目指す伊藤元教授の団体も動き始めるが、今年は学習会を4回開くだけで報道されているので注視している。

200 県有林低木除去作業と林床改良作業

ロケットセンターに向かう道路脇の低木除去作業は平成15年から「県有林灌木除去作業」として行われていた。今年9月5日(木)9:30から11:30まで、車道



脇の低木除去作業と、林内で行われている林床改良作業が同時に行われた。

上は作業前の様子
右は作業中の様子
下の写真は作業を終えたあとの集会



低木除去作業は刈り払い機が作業の中心になるが、林床改良作業は手作業なので、熊手や竹箒、一輪車やスノーボードが中心となる。この日は初めて登場した二輪車が大活躍。参加者は11名。

201 松原クリーンアップと親睦会

今年の松原クリーンアップは10月4日(金)に実施した。午前10時からいこいの広場に集合、打ち合わせのあと大森稲荷方面、トリムランニングコース、日和山方面の3コースに分かれてクリーンアップを行った。好天に恵まれて作業ははかどったが、林内の散策路付近だけを回ったにもかかわらず、様々なゴミが捨てられていた。昼からは親睦会を予定していたのでクリーンアップは11時で終了。拾い集めたゴミは



写真のとおり。参加者は15名。



その後はサン・ウッドの東側にある「四町会館」に移動し、きりたんぼ鍋を囲んでの親睦会。日程の都合でクリーンアップだけ参加した人や親睦会だけ出席という人もあったが、普段は活動に参加できない首都圏在住の会員がクリーンアップ・親睦会の両方に参加するなどして多くの話題が話し合われ懇親



を深めることができた。2時半終了。参加者14名。

202「松葉掻き」(今年度最後の林床改良作業)



10月29日(火)9:30から今年度最後の林床改良作業として松葉掻き作業を行った。参加者15名。昨年までは松露の発見があっ



たが、今回は季節外れのためか皆無。下の写真は作業を終え、お茶を飲みながら談笑する会員たち。

203 奥羽屋米代西部森林署長の講演会

11月8日(金)13:30からサン・ウッドで、講師に米代西部森林署長の奥羽屋忠法氏を迎えて講演会を実施した。演題は「松くい虫被害発生後の国有林の取り組みについて」。

講演では、明治時代の国有林成立から説明、また昭和20年以降平成22年まで撮影の航空写真で風の松原の変遷を紹介した。松くい虫被害については、これまでの状況を具体的に説明し、「松そのものに抵抗がないため、薬剤散布で終息することはないが、発病しないように頑張っている状態」と説明した。



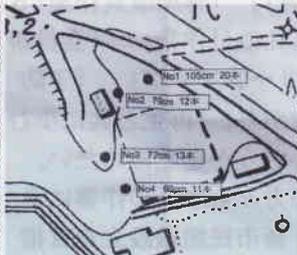
参加者30名。講演会終了後には会員有志が林内を巡って「風の松原連絡協議会」が「白砂青松を感じられるエリア」の候補地としている場所を確認した。

204 越後屋氏の松にも予防剤樹幹注入

平成26年3月3日(月)、今年度最後の事業として「松くい虫予防剤樹幹注入作業」が行われた。場所は能



代公園下テニスコート脇の通称越後屋太郎右衛門が植えたと言われているクロマツを含む4本。



左図は左上に能代一中、左下が市民球場、真ん中の四角がテニスコート。黒点4箇所が今回予防剤を打ち込んだクロマツ。

1番太い木は直径105cm、写真のクロマツは直径72

cm。4本に合計56本の薬剤を注入した。薬剤は1本2,500円だから合計14万円。費用は「秋田県水と緑の森づくり税」の補助金で実施した。参加者は16名。